

---

# 2013年度 事業計画書

---



**立教学院**

<目次>

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
立教学院本部事業計画・・・・・・・・	2
立教大学事業計画・・・・・・・・	8
立教新座中学校・高等学校事業計画・・・・・・・・	15
立教池袋中学校・高等学校事業計画・・・・・・・・	18
立教小学校事業計画・・・・・・・・	21
事業部事業計画・・・・・・・・	23
2013年度の予算編成について・・・・・・・・	25

はじめに

立教学院理事長 糸魚川 順

立教学院は、1874年にアメリカ聖公会から派遣された宣教師チャニング・ムーア・ウィリアムズ主教によって設立され、本年創立139年を迎えます。立教学院では、「キリスト教に基づく教育」を建学の精神に据え、小学校から大学までの各校がそれぞれの教育・研究の充実に努めてきました。

理事会では、建学の精神を遵守するとともに、全学院的視野に立ち①各校の教育・研究活動のさらなる充実・発展②経営基盤の安定強化、に全力を注ぎます。また、学院の掲げる「一貫連携教育」をより確かなものとするため、各校各教科の研究活動の促進や学院各校が一堂に集う合同説明会「立教スクールズフォーラム」の企画・実施など、学院本部および各校間の連携・協力を推進します。各校の教育活動が広く社会に認められ、社会のニーズに応えられるよう

1. 各校は適正な教育目標を掲げているか
2. 目標に対し適正な予算編成・執行がなされているか
3. 適正な教育効果を上げているか
4. 適正な情報開示がなされているか

の4点を念頭に置き経営に努めます。

近年、私立学校を取り巻く環境は一段と厳しさを増しております。しかし、そのような状況の中で、学院各校は、先人たちによって育み受け継がれてきた立教の建学の精神をもととし、それぞれの教育目標の実現とさらなる教育・研究活動の充実に目指しています。2013年度も教育カリキュラムの改革や施設整備を進めるなど、立教学院の教育・研究活動を支えてくださるあらゆるステークホルダーからのご期待に応えられるよう、世界に通用する自立した強い人材の育成に努めてまいります。

本事業計画書を通じて立教学院ならびに各校の諸活動について、皆様のご理解を深める一助になればと考えております。立教学院を支えてくださるすべての関係者の皆様からのさらなるご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

## 立教学院本部事業計画

### I. 一貫連携教育の推進

#### 1. 一貫連携教育の推進

立教学院の一貫連携教育は、ただ各校間の連携を密にするというだけにとどまりません。「真理を探究する力」「共に生きる力」を育むという共通した教育目標に向かって、大学、新座中学校・高等学校、池袋中学校・高等学校、小学校、それぞれの学校が責任を持ち、各校の特性を生かしながらその児童・生徒・学生の年齢や学習の進度に応じ、学問はもちろん生活や精神面まで、総合的な教育を行うところに立教学院の特色があります。そして、各校がその教育を尊重しつつ、互いに連携しながら一貫性と統一性を図ることで、自主的・自立的に学習・研究活動を行える人材、世界中の人々と協力して未来を拓く力を持った人材を育成していきます。

教学常務会のもとに置かれた学院教育研究フォーラム・ワーキンググループでは、教科(英語・理科・数学(算数)・社会・養護)ごとに各校の担当教員が集い、活発な研究活動を行っています。2012年度は、池袋と新座両中高生徒を対象にした大学理学部による「実験体験講習会」の開催、各校英語科教員による14年間の研究活動をとりまとめた『英語の一貫連携教育へ向けて』(東信堂)の発刊などを実施しました。

2013年度は、2012年度に引き続き、学院教育研究フォーラム・ワーキンググループで積極的な研究活動を展開します。また、教科の枠を超えて、教科教育に共通する題材について学外講師による講演会を実施したり、教科ごとの研究や経験を他教科に生かすための研修会を行うなど、各校の教員が個々の教育力を高めながらより一層の連携を深める活動を推進していきます。

#### 2. 立教学院振興基金による一貫連携教育、課外活動の推進

立教学院が目指す児童・生徒・学生の全人的な発達には、授業における教育のみならず、校外学習や課外活動など授業以外の教育を含めた教育全体の質の向上が重要であり、それら活動を支援する新たな枠組みとして「立教学院振興基金」を創設しました。

この基金は、寄付金を主たる財源とし、各校が連携して取り組む立教学院の特徴的な教育活動や、世界や日本のトップレベルで活躍する団体・個人の活動など、各校を代表する課外活動を重点的に援助する制度です。

2012年度は大学12件、新座中学校・高等学校2件、池袋中学校・高等学校2件の課外活動(団体および個人)や海外試合出場などに対し、3年総額95,000,000円の支援を決定しました。

2013年度も引き続き、一貫連携教育をもとにした教育活動、課外活動の活性化に向け、より積極的に支援していきます。

### II. 施設整備計画

#### 1. 学院の施設整備

教育・研究活動の持続的発展のためには、その活動を支える良好な施設環境が必要

です。①各校のカリキュラムの多様化や少人数教育に対応するため、②学術研究を充実させるため、③課外活動を活性化させるため、④より安心・安全なキャンパス作りのため、⑤建学の精神を支えるためなど、本学院の教育・研究活動の展開にふさわしい学習環境の整備を進めています。2006年に「総合発展計画」を策定し、総額約400億円規模の施設整備計画を進め、2011年度には、これまでの施設拡充計画に加え、より安心・安全なキャンパス作りを目標とした「キャンパスメーキング基本構想」を策定しました。2013年度はこの「キャンパスメーキング基本構想」に沿って、順次、具体的な建設計画を進めます。

■池袋キャンパス	
学院	*立教学院展示館(メーザーライブラリー記念館内)
大学/池袋中学校・高等学校	ポール・ラッシュ・アスレティックセンター(総合体育館)
大学	ロイドホール(18号館 図書館・研究施設)、 マキムホール(15号館 教育・研究施設)、 12号館改修、6・16号館改修、本館耐震工事 *メーザーライブラリー記念館(旧図書館)耐震工事、 *パイプオルガンの更新、*新チャペル会館
池袋中学校・高等学校	*立教池袋中学校・高等学校新教室棟

■新座キャンパス	
大学/新座中学校・高等学校	*陸上競技場、 *室内温水プール
大学	* (仮称)大学雨天野球練習場、 8号館および4号館増築
新座中学校・高等学校	* (仮称)立教新座中学校・高等学校本館校舎、 * (仮称)立教新座中学校・高等学校新総合体育館

■富士見総合グラウンド	
大学	クラブハウス、馬術部関連施設、*グラウンド再配置整備

\*については以下のページをご参照下さい。

学院 5頁 V. その他 1. 立教学院展示館

大学 11頁 V. 教育・研究環境の整備

新座中学校・高等学校 17頁 III2013年度の事業計画 3. 教育・研究環境の整備

池袋中学校・高等学校 20頁 III2013年度の事業計画 2. 教育・研究環境の整備

### III. 経営効率の向上

#### 1. MI(Management Improvement＝経営改善)推進室の活動

MI推進室は、経営効率の向上を主たる目的として、各種コスト削減プラン策定と事務職員業務の高度化を図るため、2011年度より活動を開始しました。これまでに「立教カ

ード事業の見直し」、「立教プリンティングステーションの開設」「施設管理業務の見直し」などの業務改善を行っています。

2013 年度も引き続き教学の充実、持続的発展のため、全学院レベルでの業務改善を推進していきます。2013 年度は、主に以下の事業の展開、業務の見直しを進めます。

#### (1) 立教プリンティングステーションの大学新座キャンパスおよび小中高への展開

2012 年 4 月に開設した印刷専門部局「立教プリンティングステーション」では、印刷物の発注の一元管理を行っています。また、多品種小部数の印刷を「立教プリンティングステーション」内で行うことで、効率的な印刷業務と印刷費の削減に努めています。

2013 年度は大学(新座キャンパス)、池袋・新座両中学校・高等学校、小学校へもサービスを拡大し、学院全体で本格的な運用を開始します。

#### (2) 施設管理管轄部局の再編成と業務のアウトソーシング

施設管理管轄部局の再編成と業務のアウトソーシングを推進します。アウトソーシング先を立教学院の関係会社である(株)立教ファシリティマネジメントとすることで、業務の特殊性や継承性を確保しながら、業務の質の均一化、経費の抑制を図ります。

2013 年度は学院本部の施設課と管財課を統合再編して、学院本部および大学の施設・設備の建設、改修、管理を一元化し、(株)立教ファシリティマネジメントの有効活用を一層図ります。池袋・新座両中学校・高等学校、小学校については 2014 年度までに段階的に対象を拡げ、アウトソーシングによる経費抑制を図ります。

#### (3) 施設建設業務の見直し

施設建設業務を見直し、全体手順および業務分担の再構築、経費削減を進めます。2013 年度は CM(コンストラクション・マネジメント)会社とのコンサルタント契約を締結し、施設建設費用抑制と適正化を図ります。

## 2. 予算・実績管理の徹底

学院が展開する多様な教育活動とそれを支える研究活動を一層充実させるためには、学院が持つ限りある資金を戦略的観点に立って、有効かつ効率的に使わなければなりません。より一層の予算・実績管理の徹底と予算制度の総合的な見直しを行い、時代とともに変化する教育・研究活動のニーズに応える財務体質を構築します。

## IV. 創立 135 周年記念募金活動の推進

2008 年 11 月から 2014 年 3 月までの計画で行われている「創立 135 周年記念募金活動」を、目標額 50 億円に向けて継続・推進します。予定期間の最終年度を迎え、目標達成のため寄付促進の活動を進めます。

2012 年度は、被災学生への支援や研究、課外活動への支援など、83 におよぶ指定寄付をいただき、創立 135 周年記念募金は 2013 年 1 月までに総額 3,321,298,901 円となりました。

2013 年度も引き続き、「東日本大震災で被災した本学学生および大学院学生への奨学支援」や、「災害ボランティア活動支援のため」の指定寄付や、その他のさまざまな指定寄付も含めて呼びかけていきます。

寄付者への顕彰として、大学池袋図書館(池袋キャンパス・ロイドホール)の閲覧席に

寄付者の芳名を刻み、長く顕彰させていただいております。第1期は266名の顕彰を行いました。第2期は2012年4月から2013年3月までの間で新たに累計30万円以上のご寄付を賜った個人の方が対象となります。この顕彰は、寄付者への感謝の証であるばかりでなく、在校生が多くの方々に支えられていることをあらためて認識する良い機会になると考えています。

## V. その他

### 1. 立教学院展示館

学院および各校の教育・研究活動は、常に社会の発展とともに歩み、社会での重要な役割を担いつつ歴史と伝統を形成してきました。その歴史と伝統を学術的に検証し、社会に示していくことは教育・研究機関である立教学院の重要な使命です。同時に、18万人におよぶ卒業生が在学当時の学生生活を回顧しながら、ただ懐かしむだけではなく、母校の中で自分自身を見つめ直すことが重要です。

学術的根拠に基づいた通年史の展示を踏まえ、社会、校友に対して、現在、未来の立教を発信する場、また学外組織との連携や、文化活動も想定した展示スペースをメーザーライブラリー記念館(旧図書館)に設置します。さらに最新のデジタルコンテンツを導入することで、来館者の興味・関心に応じたきめ細かい情報サービスの提供を図る予定です。

### 2. 学院各種資料の保存・デジタル化

学院および各校が保有している各種資料について、デジタル技術を用いた資料保存方法の検討を行います。

法規上、学校として保存・公開することが義務付けられている各種資料・データについては、文書保存規程や公開に関する規約などに基づき、各校において適切に処理がなされています。これらの資料・データの他、学院および各校の学校活動・教育活動上重要と思われるものについて、立教学院として保存に努めています。

2013年度は、デジタル化を見据え、学院および各校の資料保管状況を調査し、分類・保存方法について、検証・検討を進めます。

### 3. 省エネルギー対策の推進

学院ではこれまでも各部署の協力を得ながら、CO<sub>2</sub>排出量削減に向けた節電・省エネルギー対策を進めてきました。2011年度のCO<sub>2</sub>排出量は大幅な削減ができましたが、2012年度は排出基準値内であるものの増加傾向にありました。

2013年度は、学院総務部内に環境保全業務を主管する組織を新設するとともに、立教学院全体で環境保全を推進するための会議体を設け、さらなる節電やCO<sub>2</sub>排出量削減などの省エネルギー対策を実施します。

### 4. 危機管理体制の整備

2010年度に大規模地震などを想定した防災管理体制を整備しました。東日本大震災では、学生、教職員だけでなく、一般の帰宅困難者3,300人を受け入れるなど、本学の

防災管理体制の有効性が実証されました。

2013年度も、防災管理体制を充実させるべくさらなる整備を進めます。

3年次計画で進めてきた防災用備蓄品の整備も2012年度をもって完了しました。これにより、児童・生徒・学生・教職員の3日分の水や食料を備蓄することができました。東京都帰宅困難者対策条例が2013年4月に施行されますが、行政の整備基準を準用して、さらなる防災用備蓄品の整備に努めます。

大規模地震などの災害が発生した場合、豊島区や新座市の行政や地元町内会などとの連携も重要となります。豊島区では、帰宅困難者が発生した場合を想定して、行政、地元事業体、町内会などをメンバーとする協議会を発足させています。本学院もそのメンバーであり、協議会とより緊密な連携をとりながら対応していきます。

また、安心・安全なキャンパス作りの一環として、防災・避難訓練を各校で継続して実施するとともに、2012年度に実施したリスクアセスメントに基づき、学院で特定した重要リスクへの対策を推進していきます。

## 5. 職務遂行力評価制度の定着化

人事制度改革は、組織目標の達成、組織の強化・活性化に貢献できる人材の継続的かつ安定的育成、働きがいや働きやすさの推進(公平・公正な人事処遇の推進)を目的とし、第1次改革(人事諸制度の整備、人事評価の賞与への連動)と第2次改革(給与制度の見直し)に分けて進めているものです。

第1次改革は、2009年度から本格的な取り組みを開始し、職務遂行力評価制度の導入、目標管理制度、資格等級制度、職位制度などの人事諸制度の再整備を行い、2011年度には職員一人ひとりについて職務遂行力評価を確定しました。

2013年度は、職務遂行力評価の精度をより一層向上させ、その定着化を図ります。

## 6. 学院 150 年史編纂事業の推進

学院は2024年に創立150周年を迎えます。自らの歴史を振り返り、記録に留めるために、『通史』の編纂・刊行を中心に据えた学院150年史編纂事業を実施する予定です。

2013年度は学院150年史編纂へ向けて、「立教学院150年史編纂委員会」「同専門委員会」での企画・立案、『Spirit of Missions 立教関係記事集成』の刊行継続、『ウィリアムズ主教書簡集(日本語版)』刊行のための編集作業など、基幹資料の整備、刊行・公開を進めます。

## 7. 学院広報活動

学院では、教育・研究などのさまざまな情報を、メディアを通じて社会に発信し、立教ブランドの維持・向上を図っています。

2013年度は「リベラルアーツの追求」をキーワードに、メディアリレーションをさらに強化し、学院の教育・研究などが学内外に認知・理解されるための広報を引き続き、展開・強化していきます。特にビジネスパーソンへの訴求を意識した広報・広告の展開を進め



ます。

以上

## 立教大学事業計画

### I. 事業計画にあたって

総長 吉岡 知哉

社会の仕組みや技術だけでなく、既存の知識や価値の体系が根底から変わりつつある現在、大学の役割についてもさまざまな議論が起こっています。しかし、大学の基本的な社会的使命が、質の高い研究を行うこと、そしてなによりも未来を担う青年を教育することにあるという点に変わりはありません。

技術の進歩と社会の変化が速度を増すにつれ、身につけるべき知識やスキルも大きく変わってきています。しかし、そのような時こそ、時代の変化や技術の進歩によって古びてしまわない基礎的な知力、変化に柔軟に対応する思考力、そして問題に正面から取り組み果敢に未来を切り開く勇気が不可欠です。それらを総合的に兼ね備えた人間を育成するのが、立教大学の伝統であるリベラルアーツ教育にほかなりません。

豊かな人間性を育て、独創的な研究を生み出すために、大学は多様性と異質性を育てる場でなければなりません。他者と出会い、異物を取り入れ、自らを変えて行く力を持つことなしに、真の国際化もありえません。以下に示す事業計画は、それぞれの項目の達成目標を超えて、立教大学を自信と誇りに満ちた学びの場とすることを目指しています。

### II. 東日本大震災への本学の対応

本学は、2011年4月に「東日本大震災に伴う立教大学の復興支援活動指針」を策定し、立教大学東日本大震災復興支援本部による「陸前高田支援ボランティア」「広田地区仮設住宅交流活動」をはじめ、学部等諸部局のプロジェクト、学生団体の活動など、多様で息の長い支援を積極的に続けてきました。こうした支援活動を2013年度以降も継続していくとともに、学内で復興支援活動を行っている学部等諸部局のネットワーク会議や、教員の専門性を生かした陸前高田支援活動を強化し、現地との関係を密にし、被災地とともに歩んでいくことのできる支援を展開していきます。

また、福島大学との連携では2011年度に締結した相互協力・連携協定に基づき、全学共通カリキュラム科目として「震災復興論入門」を開講するとともに、本学大学院生の福島大学東京サテライト@立教における科目履修を開始します。

#### ■立教大学復興支援活動指針

- ・息の長い復興支援活動を展開します(活動時期)。
- ・被災地での復興支援活動だけでなく、復興支援活動の企画立案や関東圏域での支援活動も視野に入れた活動を展開します(活動地域)。
- ・教育、研究、および社会貢献活動という大学業務のあらゆる分野において、復興支援活動を展開します(活動分野)。
- ・復興支援活動にあたっては、学生・教職員への事前研修、事後のフォローやリスク管理を徹底するとともに、被災地域の人々のニーズに十分配慮します(活動倫理)。

### Ⅲ. 教育活動

#### 1. 学士課程教育の確立

立教大学では、2016年度からの実施に向け、学士課程教育を全体的視点で捉える新しいカリキュラムを構想中です。4年間8学期を「導入期」「形成期」「完成期」の3区分に分け、各期の学修成果を踏まえつつ、教養教育と専門教育、さらには正課外教育を相互に結び付けながら体系化していくものです。なかでも、初年次少人数教育や社会連携教育など、2016年度を待たずに改善、対応すべき課題については順次取り組んでいきます。

#### 2. 全学共通カリキュラムおよび学部における言語教育

2013年度は、全学共通カリキュラム英語副専攻科目において、学生のニーズも考慮した展開とするために科目の開講数の見直しを行います。また、英語eラーニングでは、新たにTOEICテスト演習コースを追加した授業を実施します。英語必修科目のクラス編成と英語力伸長度の測定に関しては、これまでのテストに替えてTOEIC IPを用いたテストを導入します。

また、英語教育に係る各学部の取り組みについては、展開状況と教育成果に関する検証を行います。

#### 3. 教育活動の活性化

##### (1) 外部資金による教育プログラムの展開

教育活動の充実に向け、文部科学省をはじめとする競争的資金への申請に取り組んでおり、2013年度は以下の採択プログラムを展開していきます。

■2013年度に展開するプログラム一覧	
文部科学省 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン
文部科学省 大学間連携共同教育推進事業	国際機関等との連携による「国際協力人材」育成プログラム
	データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証

##### (2) 学内助成による教育プログラムの展開

学内の学部・研究科・事務部局において行われている教育活動や取り組みをさらに発展するよう奨励するため、「立教大学教育活動推進助成」制度のもと、学内助成を行っています。2013年度はすでに採択されたものを含め、以下のプログラムに対し支援を行っています。

■2013 年度に展開するプログラム一覧	
社会学研究科	大学院博士前期課程におけるプロジェクト型授業の導入 (2010～2013 年度)
経営学部	ビジネス・リーダーシップ・プログラムの拡充とグローバル 対応(2011～2013 年度)
日本語教育センター	学習者の多様性を活かす新しい日本語コースの構築— 日本および ICT の効果的活用および教材開発 (2012～2014 年度)
経済学部	経済学部キャリア教育改革プログラム (2013～2016 年度)
コミュニティ福祉学部	東日本大震災復興支援プロジェクトの教育システム化 (2013～2014 年度)

#### 4. 大学院教育

大学院教育のさらなる高度化に向け、2012 年度に具体的施策の検討を行った「課程制大学院制度の趣旨に沿った教育の推進」、「学生の質を保証する組織的な教育・研究指導体制の確立」、「社会との連携の強化と多様なキャリアパスの確立」などの課題について、2013 年度は全学的点検を行い、2014 年度の実施に向けた準備を進めます。

### IV. 研究活動

#### 1. 学内助成の充実と外部資金の獲得

文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」(私立大学の経営戦略に基づき行う研究基盤の形成)の実施を支援するため、2013 年度は採択された同事業のプロジェクト(2013 年度開始分)に携わる助手(または RA(Research Assistant))の雇用を新たに行います。同事業のプロジェクトに実績があり、また申請に意欲的な 3 学部(観光学部、コミュニティ福祉学部、現代心理学部)を擁する新座キャンパスを本学の研究拠点として位置づけるべく、引き続き支援を行います。

2013 年度はすでに採択されたものを含め、以下のプログラムを展開していきます。

■2013 年度に展開する文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」一覧	
先端科学計測研究センター	ピコスケール計測技術の開発とその基礎科学への応用
ビジネスクリエーター創出センター	ビジネスクリエーターが創るインテリジェント・デザイン型 企業・組織と人材育成手法の実践的研究
コミュニティ福祉研究所	「うつ病者の社会的支援」および「自殺予防」に関するソ ーシャルモデル研究・開発
心理芸術人文学研究所	新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成
生命理学研究センター	オルガネラが駆動する真核細胞システムの高度化

また、2012 年度科学研究費助成事業の新規申請件数は 104 件となり、そのうち 41 件

が採択されています。新規採択率は 39.4%で、私立大学全体では第 7 位でした。2013 年度新規申請件数は、119 件となっています。

外部資金獲得に対する立教大学学術推進特別重点資金の実績評価を継続し、必要に応じた見直しを行うとともに、新たな学内研究シーズの発掘を可能とする方法や体制について検討します。

■「立教大学学術推進特別重点資金(Rikkyo University Special Fund for Research)」  
学術研究の推進を格段に図ることを目的として、学外との連携や大型外部資金の助成を視野に入れた高度にして独創的な学術研究活動に対し、その必要な経費を助成するものです。

## V. 教育・研究環境の整備

### 1. 施設整備計画の推進

2011 年度に策定した「キャンパスメーキング計画基本構想」(以下「基本構想」)は、より安心・安全なキャンパス作りのため、老朽化した施設の更新と学生の過密化への対応を目指した学院全体の施設計画です。

2013 年度は、「基本構想」に基づき、以下のとおり、池袋・新座両キャンパス、富士見総合グラウンドの整備計画を推進します。

#### (1) 池袋キャンパス

##### ①チャペル会館(延床面積 約 1,287 m<sup>2</sup>、地下1階・地上3階)

立教学院のキリスト教活動を支える施設として 2013 年 7 月の竣工を予定しています。立教学院諸聖徒礼拝堂およびチャペル会館におけるキリスト教活動のさらなる発展に寄与することが期待されます。

なお、池袋キャンパスの立教学院諸聖徒礼拝堂および新座キャンパスの立教学院聖パウロ礼拝堂では、2013 年度の更新に向けパイプオルガンの製作を進めています。立教学院諸聖徒礼拝堂で現在使用しているパイプオルガンは新しいチャペル会館内に移設する予定です。

##### ②メーザーライブラリー記念館

メーザーライブラリー記念館(旧図書館)2F は「立教学院展示館」として、新館 2・3 階部分については学生の学習・課外活動やアメニティーの向上につながる施設として整備する計画です。また、新館部分用途変更にあわせ耐震補強 2 次工事を実施します。

#### (2) 新座キャンパス

##### ①室内温水プール(50m×10 コース)

新座中学校・高等学校との共用施設として 50m国内基準競泳プールを建設します。2015 年 4 月利用開始予定です。

##### ②陸上競技場(400mトラックおよびその他競技種目)

新座中学校・高等学校との共用施設として第 4 種公認陸上競技場を整備します。2014 年 6 月利用開始予定です。

##### ③(仮称)大学雨天野球練習場(延床面積 約 1,925 m<sup>2</sup>)

大学野球部野球場西側スペースに、屋内練習場を建設します。2014年2月利用開始予定です。

### (3) 富士見総合グラウンド

近年体育会各部の公式戦が人工芝グラウンドで行われることが多くなっており、練習環境整備の観点から、新座キャンパスと富士見総合グラウンドにある各競技グラウンドの人工芝化を年次的に進めています。2013 年度は、富士見総合グラウンドのサッカー場、ホッケー場の人工芝化を行います。

## VI. 学生支援

### 1. 奨学金

本学は、学生が安心して勉学に励むことができるよう、経済的な支援を行うために大学独自の奨学金の充実を進めています。2012 年度は、経済支援目的の奨学金を総額で 1 億円増額した結果、奨学金を申請した学生のうち 4 割を超える者が受給することができました。2013 年度も同様の水準を目指します。また、東日本大震災で被災した学生への経済支援を目的とした入学金・学費減免も、引き続き実施していきます。

一人暮らしの学生に対してはこれまで通常の奨学金とは別に「一人暮らし応援奨学金」を用意してきましたが、これに加えて 2014 年度から地方出身の優秀な学生が本学を安心して進学先とできる環境を創り出すために、「入学前予約型」奨学金を新設します。

なお、現行の奨学金についても点検を行い、さらに充実する方向で見直しを行います。

### 2. しょうがい学生の支援

2013 年度も、しょうがい学生支援室を中心に「立教大学しょうがい学生支援方針」に基づいて策定された行動計画および実施計画(2013～2015 年度)に沿って、支援体制や施設・設備の整備、学内理解の促進と情報発信、調査・情報の活用、ネットワーク形成などを行います。

#### ■立教大学しょうがい学生支援方針

卒業後の自立的な社会生活を見据え、しょうがいのある学生が、主体的に大学生活を送ることができるよう、積極的に支援を行います。そのために、しょうがいのある学生にとって利用しやすい支援内容と体制を確立します。また、施設・学習設備面のアクセシビリティ環境の向上に取り組み、しょうがいの有無に関わらず、学生が相互に学び合い、共に支え合う、開かれたキャンパスを目指します。

### 3. 体育会活動支援

2013 年 4 月からは「第Ⅲ期体育会活動奨励金」および「第Ⅱ期体育会特別指導者招聘制度」がスタートします。立教大学校友会からの協力を得ながら、今後 3 年間の各部の目標実現に向けて、さらなる支援を進めます。

学業面においては「学業・スポーツ活動両立支援委員会」を中心に、教員部長および部長幹事が連携し、助言・指導体制を確立します。

## Ⅶ. キャリア支援および就職支援の融合と推進

卒業後の進路選択に向け学生を支援していくことは、大学の重要な役割です。本学はこれまで、キャリア支援と就職支援の両面における支援を充実するためにそれぞれに全学的な委員会を置いてきましたが、2012年度に1年次から4年次までの一貫した支援活動を行うことを目的に二つの委員会を統合しました。これにより、学年に対応した計画的なキャリア・就職支援活動を行える体制が整備されました。2013年度は、現在構想中の「学士課程統合カリキュラム」策定に向けた議論と関係付けながら、全学的なキャリア支援計画を定め、各学部・研究科・学生支援部局などにおけるキャリア教育・支援プログラムの開発や協力・連携に力を注ぎます。

また、学部の特性やニーズに合わせたさまざまな支援活動を行うため、2012年度に「学部キャリアサポーター制度」を新設し、活動を開始しました。2013年度は、この学部キャリアサポーターによる学部を超えた交流の場をさらに拡充し、それぞれの経験を共有し、本学のキャリア支援と就職支援をさらに充実させていきます。

## Ⅷ. 国際化、国際連携

### 1. 国際化推進

2013年度は、昨年度からの国際化推進本部の検討を踏まえ、中長期の国際化推進方針に基づいて実施計画を策定します。

また、2012年度に採択された大学間連携共同教育推進事業「国際機関などとの連携による『国際協力人材』育成プログラム」を明治大学、国際大学とともに実施します。新たにグローバル教育センターを設置し、全学共通カリキュラム科目として「『国際協力人材』育成プログラム」および「グローバル・リーダーシップ・プログラム」関連科目を展開し、国際化に向けた教育プログラムを充実していきます。

### 2. 国際交流寮の新設

本学はこれまでに、国際化推進のため、さまざまな国籍の学生が集い、異文化に触れる機会を持つ場として、国際交流寮「RUID 朝霞台」「RUID 志木」を開設してきました。

これらに加え、2013年4月より「立教大学椎名町国際交流寮(RIR 椎名町)」を新たに設置します。これに伴い、3棟での合計室数は334室(99室が特別外国人枠、235室が一般学生枠)となり、池袋・新座両キャンパスの近接地に国際交流寮が整備されることとなります。

## Ⅸ. 社会連携の推進

2013年度は、教学連携課を中心として以下の3領域にわたる諸活動を引き続き行います。

### ①基盤領域

連携先との間で取り交わす契約書類などの標準化、社会連携に関わる活動内容、担当部署、進行プロセスなどを盛り込んだデータベースの整備に着手します。

### ②サポート領域

学内外からの相談受付や新規の引き合い案件に関する学内外の調整連携先手続き

を整備します。また、各種連携協定(豊島区・新座市・埼玉県・東京芸術劇場・武蔵野銀行など)の管理方法を構築します。

### ③戦略領域

すでに学内で実施されているサービスマーケティングやさまざまな社会との取り組みを土台とする体験型教育などの正課・課外教育活動を踏まえ、「学士課程総合カリキュラム」を構想する枠組みの中で「社会連携教育」のパイロットプロジェクトを実施します。ことに、サービスマーケティングについては、2013年度から、2016年「学士課程統合カリキュラム」における本格稼働を前提としたパイロット授業を運営します。

以上



## 立教新座中学校・高等学校事業計画

### I. 事業計画にあたって

校長 渡辺 憲司

立教学院の一貫連携教育の理念のもと、キリスト教における教育を理念として掲げています。学年ごとに毎日設けられているチャペルでの礼拝は、それを生徒自身の血肉とすべく行われているものです。私たちが掲げているのは、キリスト教に基づく、愛と正義を持ったヒューマニティーあふれる人材の育成です。地球的視野に立った「共に生きる」精神を互いに共有しながら、未来を切り開くエリートに育ててほしいと考えています。

本校が長い歴史の中で掲げてきたのは、自由の旗です。いかなる歴史的状況にあっても、自由、それを支える自主独立・責任の精神を重んじます。「真理は我らを自由にする」という聖書の言葉は、そのまま本校を貫く理念であります。公正な判断力を陶冶し、人間味豊かなく愛される人 <愛する人> を育て、多くの人を幸せに導く真のリーダーを輩出したいと考えています。

また、国際的社会に貢献できる人材育成のために、殊に本校が重視しているのは、コミュニケーション能力の養成です。言語の習得はもとより、基盤となる文化土壌の理解などにも積極的プログラムを組んでいます。

本校は、異なった命はすべて等しく神から祝福され愛されるものと考え、一人ひとりの個性を大事にする教育を行います。公正な判断力を培います。

本校は、勉学・文化活動・スポーツ活動においても、資質の高い教員の教育力と充実した施設を背景に優れた実績を挙げてきました。2014 年度には本館校舎と総合体育館が竣工予定です。

輝かしい伝統に甘んじることなく、今後も常に自校の教育を検証し、新たな教育活動の展開に向けて歩を進めます。立教学院として取り組む一貫連携教育の推進、学院各校との連携・協力を深化させながら、学業とともに、文化・スポーツの両面にわたってバランスの取れた人材を育成していきます。

### II. 教育改革への取り組み

本校では、これまで培って来た教育活動をさらに発展・深化させるため、さまざまな取り組みに着手しています。教室で行われる授業を深め、より徹底した基礎学力の養成はもとより、学外での研修も積極的に見直し、生徒一人ひとりにとって充実したものとします。

これら教育改革をより着実に展開するための施設として、現在進められている新本館校舎、新総合体育館の建設計画が位置付けられています。

#### (1) 新高等学校指導要領の実施

2013 年度高等学校入学生から、新しい学習指導要領に沿ったカリキュラムを年次進行で実施します。数学科と理科は 2012 年度から先行実施しています。国語科では卒論を含めた表現分野に関する指導を充実していきます。表現指導の一環としては、2014 年完成の新校舎に書写・書道室が用意され、中学校芸術科の書写、高校国語科

の書道のための特別教室として、充実した文字教育が展開されていきます。公民科では3年生に必修科目を設置します。英語科ではコミュニケーション能力の育成に重点を置き、インタラクティブなツールとしては、新校舎にCALL教室が誕生し、豊かなコミュニケーションの醸成を目指します。保健体育科でも武道に選択制を採用します。

#### (2) 中学校6クラス化(少人数教育)

2014年度中学校入学生から、一学年の人数を増やさずに5クラスから6クラスにします。生徒のさまざまな個性を伸ばしていくための土台作りとして、よりきめの細かい学級運営と生活体験の場としていきます。2013年はそのための準備の年としていきます。

#### (3) 教科による海外研修旅行の実施

アメリカサマーキャンプや英国サマースクールに加えて、今後いくつかの教科による海外研修旅行を実施します。2013年度は、英語科による「オーストラリア短期留学」(夏)、理科による「オーロラを見よう(スウェーデン)」(冬)、芸術科による「ニューヨーク芸術鑑賞」(春)を実施します。これらの海外研修旅行により、いままでビデオ教材などで視聴するしかなかった事象を、生徒たちは直接体験できることとなります。また、生徒たちがその事象の文化的・自然的背景を肌で理解し、地球的な感覚を身につけることに繋がります。

### Ⅲ. 2013年度の事業計画

#### 1. 教育プログラムの整備・充実

##### (1) 一貫連携教育の充実

立教大学との連携をいままで以上に密にし、いくつかの学部の協力によって通常の授業の枠にはとられない学習体験を生徒たちに提供します。これらの学習体験は、生徒たちの知的好奇心を刺激します。さらに、生徒たちは研究・調査の方法を学び、その学んだことを発信する能力を身につけます。これらの学習体験は、生徒たちの大学学部学科や職業の選択にも繋がると考えています。

##### (2) スーパーサイエンスハイスクールへの申請

本校は類いまれな実験・観察設備を備えており、それを駆使して本校独自の理科カリキュラムを展開しています。また、上記にあるように、立教大学との連携や海外研修旅行の計画など充実した理数教育を行っています。これらのことを基礎にして、スーパーサイエンスハイスクール指定を申請します。

##### (3) 国外の組織や学校との連携

2012年度にInternational Boy's Schools Coalitionに加盟し、年會に参加しました。今後もこの活動を継続します。そして、この活動などを通して繋がりができた海外の学校との連携を強めます。2013年度は、イギリスのイートンカレッジからギャップイヤー学生や聖歌隊の受け入れを行う予定です。また、アメリカンスクールなど日本国内にある異文化の学校との交流も、部活動を中心にさらに盛んにしていきます。

##### (4) その他

例年通り、教職員研修の奨励と自己点検、各教科の基本プランの充実を促し、教育力を向上させ、生徒の学力を引き上げます。また、地域へのスポーツ施設の開放、地域指定校制推薦入試の実施、近隣小学校との相互の施設利用など、地域との連携も継続

します。

学校評価については、すでに行っている「自己評価」および「学校関係者評価」に加えて、「第三者評価」を実施する準備を進めていきます。

## 2. 教育・研究環境の整備

### (1) 4号館利用開始

2013年1月、本校の新たな施設である4号館が竣工しました。4号館は、新本館校舎完成の2014年3月まで高校の代替教室として利用されます。1階には教員控室と教室が6室、2階および3階には教室が7室ずつ配置されています。また、新本館校舎完成後は新部室棟に改修され、文化部、体育部の学友会館施設として利用されることになっています。文化活動、スポーツ活動のさらなる成長と発展が期待されます。

### (2) 新本館校舎・新総合体育館建設計画

2013年度は、新本館校舎と新総合体育館建設計画が進行中です。新本館校舎には、高校全学年のホームルーム教室、19を数える多目的教室、書写・書道室、調理実習室、技術室、CALL教室、保健室、教員室、生徒ラウンジなどが配置されます。特に、教員室は生徒にとって使い勝手の良い、双方向のコミュニケーションの場となる工夫が施されています。一方、冷暖房完備の新総合体育館には、講堂機能を持ったメインアリーナ、柔道場、多目的フロア、トレーニング場、ミーティング室、体育教員室などが配置されます。

以上

## 立教池袋中学校・高等学校事業計画書

### I. 事業計画にあたって

校長 鈴木 弘

立教池袋中学校・高等学校では、キリスト教に基づく人格の形成を目的とする人間教育を理念とし、神を愛し、神の前に謙虚で感謝を持って生きられる人間の育成を目指しています。

立教学院一貫連携教育構想で定めた立教学院各校共通の教育目標である「テーマを持って真理を探究する力」を育てること、つまり神から与えられた力を自ら発見し、これを伸ばしてより広い視野のもとに判断する力を養い、強い意志をもって探究する人間の育成を目指します。また「共に生きる力」を育てること、つまり神に愛されている人間として、互いに理解し合い、自己本位でなく、共に助け合って、広く国際社会にも目を向け、共同生活を豊かにすることができる人間の育成を目指します。そして、これらに加え「豊かでの確かな日本語」と「生きた英語」の習得を目指した教育を推し進めます。

さらに、進んで心身を鍛え、豊かな感受性をもって、すべてのいのちと環境を大切にすることができる人間の育成を目指します。

本校では、このような教育目標を実現するために、また中高 6 年制の利点を生かした教育の充実を目指し、次のような教育改革を進めてまいります。

そのひとつは英語の特化教育を初めとした各教科指導の充実を図るため 2012 年度より中学校、高等学校ともに「週 6 日制」を実施し、増加した時間数を生かし新しいカリキュラムによる授業を実現しています。

もうひとつは、少人数教育を具現するための教育施設として、新教室棟とポール・ラッシュ・アスレティックセンターを 2012 年度内に竣工しました。これにより 2013 年度の中学校と高等学校の新入生より 4 クラス制を実施します。

この新しい教育環境を最大限に活用し、2013 年度も本校の使命を反映した立教らしい特色ある教育展開と環境整備に、さらに鋭意努力を重ねてまいります。

### II. 教育改革への取り組み

#### (1) 2012 年度より週 5 日制から完全週 6 日制へ

生徒一人ひとりへのきめ細かい教科指導と生徒達とのコミュニケーションをより深めるため、またグローバルな視点から英語教育をさらに特化する目的のため、授業時間数を増やすため、2012 年度より完全週 6 日制を開始しました。

#### (2) 2012 年度より新カリキュラムを実施

英語教育等、各教科指導に力を入れた新カリキュラムを展開していきます。

- ① 中学校・高等学校全学年の英語科の授業時間数をすべて週 7 時間にしました。
- ② 少人数による、より充実した英語の授業を数多く展開するために、2012 年度に完成した新教室棟には、電子黒板を配備した英語教室を 10 教室設置しました。
- ③ 2013 年度からは 3 クラス編成であった中学校・高等学校各学年を 4 クラス編成 (1 クラス 36 人制) にすることと並行して、1 クラスを 2 教室に分けた従来通りの授業を継続することで、さらなる少人数授業を展開します。

(3) 2012 年度内に教育環境整備を完了

少人数学級実現と現状の少人数教育環境を向上させるための新教室棟建設を、また体育施設充実のため新体育館建設およびグラウンドとテニスコートの人工芝工事を 2012 年度内に完成し、質・量ともに充実した教育活動を展開します。

### Ⅲ. 2013 年度の事業計画

#### 1. 教育プログラムの整備・充実

##### (1) 教学改革プロジェクト

- ① 高等学校新学習指導要領によるカリキュラム変更を高校 1・2 年生で実施します。
- ② 中学校・高等学校の新入生から 4 クラス制を実施します。
- ③ 2014 年度全学年 4 クラス制実施に向け教学面の具体的準備をします。
- ④ 高等学校進級制度、大学推薦制度(人数枠)の点検を行います。
- ⑤ 電子黒板活用やデジタル教科書導入に向け ICT 教育の研修・研究をします。

##### (2) 国際理解プログラム

現在実施されている中学校・高等学校の国際理解プログラムを再点検します。また、生徒が留学しやすい環境作りのため高校海外留学規程の見直しを継続します。

##### (3) 立教英国学院との教育連携の推進

立教英国学院との教育連携の覚え書きを取り交わし、より円滑な交流の実現を目指します。

##### (4) 学習力強化

教科活動における学習習慣作りを、特に中学 1 年・2 年で集中して推進します。さらに成績中上位者の意識向上を目指します。

##### (5) いのちの教育

- ① いのちへの感謝・いのちの大切さ・自分の使命などについて考えることを通して、「生きることの意味を考える」教育を展開します。
- ② 東日本大震災の経験を生かし、緊急時や災害時に自分のいのちや人のいのちを助け、守るために必要な行動訓練など、「いのちを守る」教育を充実させていきます。

##### (6) キャリアデザイン教育

6 年間を通したキャリアデザイン教育を点検・整備します。さらに、高等学校におけるキャリアデザイン教育を学院高大連携セクションと共同で企画し、さらに推進します。

##### (7) 教育相談体制のさらなる充実

- ① 生徒一人ひとりのこころに寄り添う教育を目指し、保護者と信頼関係のもとに教育相談体制の充実を図ります。
- ② 新たに完成したスクールカウンセラー室を活用し、保健室と密接な連携のもと、さらにきめ細かい生徒への対応や保護者相談を目指します。
- ③ スクールカウンセラーの勤務日を週 5 日間とし、クラスや学年の教員との連携を軸に、外部機関の支援を視野に入れた包括的な教育相談活動を展開していきます。

##### (8) 教育環境の変化に対応して

- ① 今年度からの高等学校 1 年生・中学校 1 年生での 4 クラス制の導入により、委員会や

集会などの人数などのルール変更を実態に合わせ改善していきます。

- ②完成した新教室棟やポール・ラッシュ・アスレティックセンターでの生徒の生徒の生行動線を調べ、安全への配慮、使用状況の確認を行い、適切なルール作りとともに安全第一とする管理体制を速やかに構築します。
- ③人工芝グラウンドの利用方法を検証し、安全管理とともに近隣の住民への騒音などの管理もしていきます。

#### (9) 継続課題

- ①本校の評価法である「認定制」の見直しを継続します。
- ②教師の授業力向上を目指し、学内での各教科の研究・公開授業の実施を継続します。特に今年度は電子黒板・デジタル教科書などの導入に向けICT教育の研究を推進します。

### 2. 教育・研究環境の整備

- (1) 少人数教育による英語教育特化のため小教室(10 教室)すべてに電子黒板を配備し、メディアを駆使した授業展開を行います。
- (2) 改修工事が終了した家庭科教室を利用し、調理・服飾を中心に男子校における家庭科教育を充実させます。
- (3) 第 2 情報教室を増設し、情報科以外の教科でも積極的に利用します。
- (4) 全普通教室に液晶テレビを設置し、普通教室でのメディア教育を充実させます。
- (5) 新教室棟、ポール・ラッシュ・アスレティックセンター、人工芝グラウンドおよびテニスコートなどが完成し、教育環境は格段に向上しました。特に室内温水プール(50 m)による水泳指導の充実を図ります。
- (6) シンクライアントシステムの安定運営に努めます。

### 3. その他

- (1) 将来の施設改修・建設工事などに備えるため、引き続き、できる限りの資金留保に努めるとともに募金活動を積極的に推進していきます。
- (2) 建設計画が完了した新キャンパスの緑化(植栽など)について計画的に実施していきます。

以上

## 立教小学校事業計画

### I. 事業計画にあたって

校長 西村 由紀夫

本校では、キリスト教信仰に基づく人間教育を目標に、お祈り・礼拝・聖書の授業を通して神様に喜ばれる子どもたちを育成しています。教育目標は具体的に 4 つの目標を掲げています。

- 1 友だちのよいところがわかる子ども
- 2 自分のよいところを表現できる子ども
- 3 広い視野でものを見られる子ども
- 4 すべてに感謝できる子ども

私たちの小学校では、人や自然を大事にし、すべてに感謝できる子どもを育てます。さらに、広い視野でものごとが見られ、自分の良いところを表現できる子どもを育てます。このことは立教学院一貫連携教育のねらいである、「テーマをもって真理を探究する力」、「共に生きる力」の基礎を育むこととなります。小学校の6年間だけではなく、大学までの16年間で一人ひとりの個性を伸ばした人間教育を目的としています。

教育活動において、2012 年度に新企画として海外ホームステイプログラム(5・6 年希望者)、スキー教室(4 年希望者)を実施しました。2013 年度はさらに、朝読書の充実、自学学習教室の積極的な活用を子どもたちに促していきたいと考えています。

スクールカウンセラーを配置して 3 年目を迎えますが、子どもたちおよび保護者の心のケアにも気を配り、学校側からはチャプレンを中心にサポートを、第三者の立場からはスクールカウンセラーへの相談を気兼ねなく受けられるようにさらに環境を整えていきたいと考えています。

東日本大震災から2年が経過しましたが、まだまだ支援を必要とする学校や施設が多くあります。2011 年度から続けている被災地の小学校・幼稚園への支援をこれからも子どもたちと一緒に継続していきたいと考えています。

### II. 教育改革の取り組みについて

小学生という発達段階で大事なことは、心身のすこやかな成長とともに、基礎学習力と学習習慣の定着です。中学校、高等学校、そして大学と、より高度な学習・研究を積み重ねていく上で、小学校はその土台(基礎)作りの大切な時期です。

本校はこれまでも日々の学習やさまざまな学校行事が児童にとってどのような意味を持つのか検証し、いかなる方法、取り組みが、児童の成長に資することになるのか研究を進めてきました。今後も学校全体で、教育力の研鑽に努めます。

- (1)教育改革推進委員会や教科研究部会を中心に、本校の教育目標を実現するため、教育内容の充実、新校舎建設準備など、継続性のある教育改革を進めていきます。
  - ・毎年、各教科の年間授業計画の作成、授業実施、結果検証など、継続的な教育内容の改善を進めていきます。
  - ・情報科を中心に教科を越えた共同学習を展開しており、将来メディアセンターを中心にどの教科ともコラボレーションできるシステム作りを研究し、新校舎建設に反映さ

せていきます。

- ・マネジメント会社のサポートを受けながら、教員のニーズ調査を実施し、ファシリティ戦略を策定していきます。

(2) 基礎学習力向上と学習習慣の定着化に引き続き取り組んでいきます。

- ・家庭での勉強の仕方や毎日の日記指導を行います。
- ・朝時間帯のモジュール学習(10分間読書)を通して、本の好きな子を育てます。
- ・一人ひとりの学習力向上のため、個別指導や学力強化週間を充実させます。
- ・校内に自学学習教室を設置し、積極的に学習に取り組む姿勢を養います。

### Ⅲ. 2013年度の事業計画

#### 1. 教育プログラムの整備・充実

全体目標「一人ひとりの子どもが生きる教育を考える」

- (1) お祈り(朝礼・昼食・終礼)・チャペル礼拝・聖書授業などの実践を通して信仰心のある子どもを育てます。
- (2) 男子校としての独自性を発揮し、体験学習の充実・縦割り教育・聖劇・発表会など実践を通して身に付く学習への取り組みをさらに強化します。
- (3) 教員の教育力向上に向けて次の研修を実施します。
  - ・教科部会(国語・算数・社会)での研究を継続します。
  - ・教員による公開授業および振り返りの実施を継続します。
  - ・本校教職員と学院調査役による授業参観と担当教員への指導を継続します。
  - ・小大共同研究会(1955年から実施の立教大学教育学科と立教小学校教員の相互研究)を継続します。
  - ・2013年度は、東京私立初等学校協会研修会が本校を会場として行われます。会場校としての役割を果たし、各教科の授業公開、授業内容の充実を図ります。
- (4) ラーニングサポートシステム(学生による授業補助体制)を継続して実施します。
  - ・プールでの水泳指導・安全管理補助、そして教室での授業の子どもへのサポートを実施します。
  - ・立教大学ゴルフ部・立教大学アメリカンフットボール部の協力のもと、体育の授業(スナッグゴルフ・フラッグフットボール)を実施します。
- (5) ゲストスピーカーによる授業や講演を継続して実施します。
- (6) 年間行事(キャンプ、グローバルエクスカージョン、関西方面を中心とするフィールドワーク、発表会、聖劇など)については、2012年度の反省をもとにさらに充実した活動にしていきます。

#### 2. 教育・研究環境の整備

- (1) 施設・設備の修繕は、児童の安全を優先し緊急を要するものや老朽化に対応した計画的な整備を段階的かつ迅速に行います。
- (2) 最新式コンピュータシステムの構想・構築、機種を更新、特に iPad-mini を情報科・英語科・理科を中心に常備し、教職員が子どもと一緒に活用、研究していきます。
- (3) 将来の新校舎建設のために建築資金の計画的な積み増しを継続します。



## 2013 年度立教学院事業部事業計画

### I. 基本方針

立教学院事業部は、立教学院の学生、生徒、児童、勤務員の福利厚生を増進を図ることを目的とし、事業を推進し、本事業により得られた収益は、全て立教学院に還元します。

### II. 目標

主力4事業である学内諸施設の有料貸与、立教キャリアアップセミナー運営、セントポールプラザ(売店)運営、自動販売機管理運営を強化し、売上予算ならびに当期利益予算の達成を目指します。

### III. 2013 年度の事業計画

#### 1. 学校内諸施設の有料貸与

学校内諸施設の外部貸与(教室貸出、撮影場所の提供)を進めるにあたり、2012 年度利用実績のある外部団体などへの積極的なアプローチを図ります。また、撮影場所の提供も積極的に進め、歴史ある立教学院の建物、景観を外部にアピールし、学院全体で進める広報活動を側面から支援します。

#### 2. 立教キャリアアップセミナー運営

立教キャリアアップセミナーは、2002 年度に、立教大学と連携して開設した立教大学学生・卒業生向けの有料講座です。本講座は、単なる資格取得のためだけの講座ではなく、新しい技術を身につけたり、運用能力を磨くことで、自身の可能性を拓けることを目的としています。毎年 1000 名近くの受講生を集めています。2013 年度は、語学の講座、資格取得支援の講座、就職支援の講座を中心に 31 講座 50 コースを開講する予定で、市価より割安な価格で提供します。また、講座のレベルを保証するために、本学院の理事や本学教員で構成される立教キャリアアップセミナー運営委員会が、講座内容を厳選しています。

#### 3. セントポールプラザ(売店)運営

セントポールプラザは、立教学院利用者の福利厚生を目的とした文具販売、書籍販売、その他サービス事業を展開しています。池袋キャンパス店では、主に文具・飲食品の販売と書籍の販売、新座キャンパス店では、ファミリーマートおよび書籍店(MRUZENブックセンター)を展開しています。利用者の方々の要望にそった品揃えや販売に取り組みます。池袋キャンパス店では、文具 25%、書籍 10%の割引、新座キャンパス店では、文具 25%、食品の一部を 5%、書籍 10%の割引にて販売します。2012 年度に発売し、好評を得ました「立教ミネラルウォーター」をはじめ、立教グッズの新たなアイテムを企画し、ネット販売の拡充を含め、みなさまに愛される事業展開を進めます。

#### 4. 自動販売機管理・運営

学院および各校設置の自動販売機は、池袋・新座両キャンパスにおいて、約 80 台を稼動しており、飲料以外のパン・菓子などの食品についても充実を図ります。

#### 5. その他の事業

その他事業として、立教カード事業においては加入者の拡大、不動産賃貸業・管理業においては、駐車場の再利用策、課金式コピーの管理運営、壁掛けカレンダーの製作・販売などにも取り組みます。

以上

## 2013 年度の予算編成について

学院が展開するさまざまな教育活動とそれを支える研究活動をより一層充実させるため、これまで述べてきた学院本部、各校の事業計画に基づいて 2013 年度予算は下記の方針で編成を行いました。

収入面では、主たる収入源である学費確保に向けた、安定した受験者数と入学者数の維持は当然のことですが、補助金や各種助成金、学外からの競争的資金への積極的な申請と獲得、安定的で確実な資金運用、事業部を中心とした多様な事業収入、そして募金活動の推進と、さまざまな形でより多くの収入を得る方策を強化しながら継続します。

支出面では、教育・研究活動に支障が生じない範囲において、人件費、光熱水費などの固定費や各種管理経費、建設・改修費の削減に努めながら、在校生が充実した教育を受け、満足度の高い学校生活を送れるよう、各校が掲げた重点項目への積極的な資金投下と将来計画に備えた資金留保を行います。

300 億円を超える帰属収入規模である本学院では、今後も、教育・研究活動の充実と将来計画のため、的確な優先順位と配分にもとづく予算編成を実施していきます。

### <各校の予算上の重点項目>

- |      |  |
|------|--|
| 学院本部 | ①より充実した一貫連携教育の実現<br>②より戦略的な学院広報の展開<br>③施設建設業務など、業務の見直し・再編によるコスト削減の推進                     |
| 大 学  | ①国際連携関連経費など大学グローバル化に向けた戦略的な投下<br>②学生支援策としての各種奨学金の充実<br>③「キャンパスメーキング基本構想」に基づく新座キャンパスの施設建設 |
| 新座中高 | ①2014 年度竣工に向けた新校舎、新総合体育館の建設<br>②少人数教育充実とカリキュラム変更への対応                                     |
| 池袋中高 | ①新教室棟とポール・ラッシュ・アスレティックセンターの完成にともなう授業・課外活動の活性化<br>②クラス編成変更とカリキュラム変更への対応                   |
| 小学校  | ①基礎学力定着に向けた授業・各種取り組みの継続<br>②将来計画への資金留保   |

※詳しくは、別表「2013 年度事業計画関連予算」をご覧ください。

## 2013年度事業計画関連予算

(単位:千円)

区分	事業内容	予算額
学院本部	学院広報関連経費	58,839
	人事・給与システムの更新関連経費	13,951
	学院施設整備関連工事	323,821
大学	東日本大震災復興支援関連	212,096
	研究プロジェクト(私立大学戦略的研究基盤形成支援事業)助成関連経費	289,340
	池袋キャンパス施設整備関連工事	1,187,153
	新座キャンパス施設整備関連工事	1,067,446
	富士見総合グラウンド整備関連工事	246,333
	奨学金関連経費	853,456
	国際連携関連経費	533,988
新座中高	本館校舎・総合体育館建設等施設整備関連工事	3,297,965
池袋中高	教育施設整備関連工事	39,000
小学校	既存施設改修・修繕等施設整備関連工事	42,000